

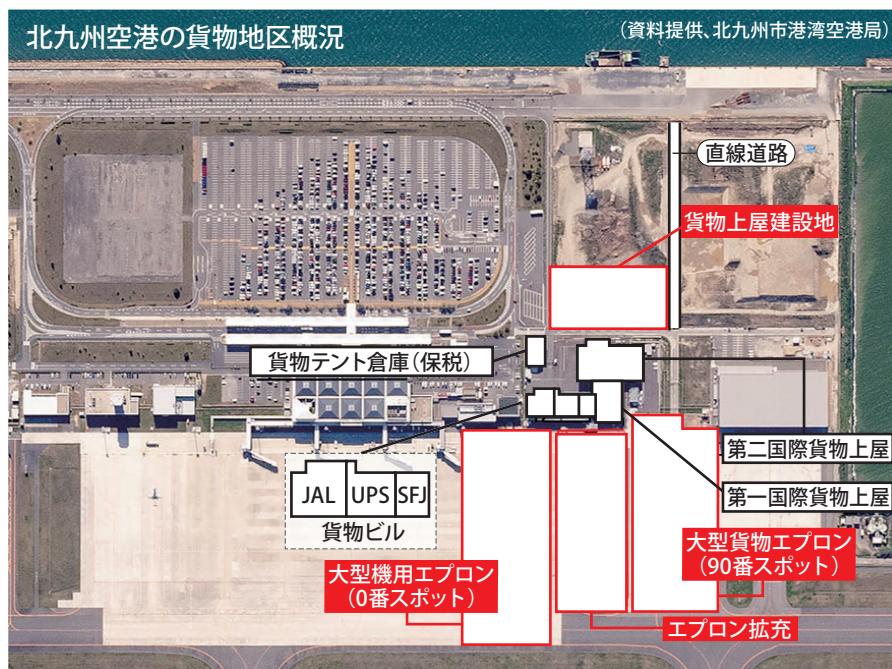
新貨物上屋が来年2月竣工へ

■北九州空港

北九州空港で新たな貨物上屋の建築が始まる。来年2月竣工予定でヤマト運輸などの利用が検討されている。合わせてエプロンの拡充も進めている。同空港では今年2月にUPSが就航し、大韓航空のフレイター定期便も運航している。九州では半導体関連、電子部品関連などでメーカーの大型投資が進んでおり、国際貨物の需要増加が見込まれている。加えて、2024年問題も背景に国内転送でのフレイター利用も想定されている。今後の国内・国際貨物の需要も背景に、貨物拠点化に向けて着実に取り組んでいく。

新貨物上屋は北九州エアターミナルが今年秋に、現在の貨物地区西側で整備を始める（図参照）。敷地面積は約7000平方メートル。上屋は平屋建てで、延べ床面積は約2100平方メートル。同空港では昨年7月に第2国際貨物上屋が竣工するとともに、トラックヤードをはじめとする各種機能を整備した。今後の上屋体制としては、既存の貨物ビル、第1国際貨物上屋、第2国際貨物上屋、保税テント倉庫に新貨物上屋が加わり、機能強化が進む。現在の貨物地区は全て保税エリアであり、貨物ビルは、スターフライヤー（SFJ）、UPSおよび日本航空が利用中。UPSは、貨物ビルをSP貨物、また、一般貨物は日本航空に委託して第2国際貨物上屋で取り扱っている。

直線道路とフレイター用のエプロン拡充は国土交通省が進めている。同空港では旅客機と貨物機の大型機用のエプロンがあり、駐機スポット番号は0番。現在、定期貨物便を運航



している大韓航空が利用している。また、大型貨物機用のエプロンもあり、駐機スポット番号は90番。UPSが利用している。整備中のフレイター用のエプロンの駐機スポットは来年4月就航予定のヤマト運輸のフレイターなどの利用を想定している。

同空港を巡っては国土交通省が今

年3月30日、滑走路延長事業について、新規事業採択として適当であるとの報告を公表した。現在の滑走路（2500メートル）を3000メートルに延長する。2023年度に整備事業を開始し、27年度の完成・供用開始を計画している。